

別記様式第8号(別記1の第6の1、別記2の第5、別記3の第6関係)

鳥獣被害防止総合支援事業、鳥獣被害防止都道府県活動支援事業及び鳥獣被害防止緊急捕獲活動支援事業の評価報告(令和元年度報告)
山口県

4 各事業実施地区における被害防止計画の達成状況

事業実施主体名 (協議会名)	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始	利用率・稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績						事業実施主体の評価	第三者の意見	都道府県の評価
										被害金額(千円)			被害面積(ha)					
										目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率			
光市有害鳥獣捕獲対策協議会	光市	H29	イノシシ ニホンザル カラス カワウ	有害捕獲	サル大型囲いわな 1基 箱わな 6基	光市有害鳥獣捕獲対策協議会	H29.10~	100%	サルの群れの重点的に捕獲	7,454	9,852	25%	6,00	7,47	43%	イノシシ被害の軽減がほとんど達成できず、原因は以下のことが考えられる。 (1)平成29年度を中心として、捕獲隊による捕獲数の減少がある。 (2)捕獲隊に貸出している箱わなの稼働率が悪く、少なくとも被害の高止まりが続いている。 (3)以前から指摘されているが、捕獲隊員数の減少及び高齢化は、捕獲数減少の深刻な要因と思われる。 (4)捕獲隊に支給している定額助成金(単市)は、隊員数が増加すれば却って一人当たりの支給額が減少する問題があり、捕獲隊員増員の支障になっていると考えられる。 (5)本市の有害鳥獣捕獲は、光地区猟友会員の一部で編成される捕獲隊に直接委託しているため、捕獲隊員増員などに関し、地区猟友会の協力が得られず、周辺市町と比べて捕獲隊員数が著しく少ない状況である。	光市において課題となっているイノシシの被害対策については捕獲隊の問題もありますが、イノシシ被害の状況を分析し、侵入防止柵の新設や修繕、隠れ場となる雑草放棄地の刈り払い、えさとなる取残残さの除去及び管理放棄果樹や放置竹林の伐採等、イノシシを集落や畑に引き寄せないための総合的な対策に取り組む必要があります。	サルの被害金額、被害面積は目標を達成している。イノシシの被害金額、被害面積はいずれも減少しているが、目標には達していない。(カラス、カワウは数値目標なし)。イノシシについては、被害減少に結びつく加害個体の捕獲、侵入防止柵の整備、生息環境管理など総合的な被害防止活動の取組を市内に波及させていくことが重要である。
		H30	イノシシ ニホンザル カラス カワウ	鳥獣被害防止施設	侵入防止柵 2.125m		H30.11~	100%	防護柵の設置によるイノシシ等の農業被害の軽減									
		R1	イノシシ ニホンザル カラス カワウ	鳥獣被害防止施設	侵入防止柵 665m		R2.3~	100%	防護柵の設置によるイノシシ等の農業被害の軽減									